林会長： 本日の議案は 3 件です。まず令和 7 年度第 2 回推進会議のフィードバックについて、事務局から説明をお願いします。

村上課長：（資料 3 について事務局から説明）

林会長： ありがとうございました。報告について、委員の皆様からご質問、ご意見はありませんか。ないようですので次の議題に移ります。南区地域包括ケアシステム推進方針に係る取組の令和 7 年度および令和 8 年度前半の取組について、事務局から説明をお願いします。

村上課長：（資料 4 および別紙 1～6 について事務局から説明）

林会長： ありがとうございました。盛りだくさんの内容でしたが、皆様からご質問や追加のご意見がありましたらお願いします。南区はよく頑張っているなと思いますが、いかがでしょうか。

梨木委員： AI タクシーは 9 月から運行開始していますが、まだ PR が不足しており、情報が十分に行き届いていないと感じています。せっかく停留所を設置していただいたので、もう少し周知する方法があるのではないかと思います。よろしくお願いします。

林会長： ありがとうございました。この件について、ご意見や区役所からのコメントがありましたらお願いします。城南、富合の現場からでも結構です。

米村委員： ささえりあ城南の米村です。よろしくお願いします。梨木委員のお話のとおり、9 月から運行が開始されましたが、まだ PR 不足なのは事実だと思います。地震後の支援の場面でも、地域の皆様へお話しする際には、移動相談以外の場面でも「こういうサービスがありますよ」と紹介するようにしています。今後あらためて周知・PR を行っていきたいと思います。

林会長： ありがとうございました。中島委員、お願いします。

中島委員： 富合の中島です。先ほどのご意見と同じように、PR 不足だと思います。回覧板で行き先一覧や停留所一覧は回ってきましたが、回覧なので手元に残りません。行き先と停留所の一覧を配布していただければ、もう少し知ってもらえるのではないかと思います。

林会長： ありがとうございます。その点について、行政や他の委員から何かありますか。

楠本委員： 富合校区では、停留所がゴミステーションの裏側に貼られていて分かりにくいという意見や、停留所の場所が分からないので一覧を配布してほしいという意見が出ています。ささえりあ富合としては、チョイソコデマンドタクシー導入に合わせて、地域の方に実際に乗っていただき、その様子を動画にして公式 LINE で配信し、乗り方や利用方法を周知しています。しかし、まだ知らない方も多く、高齢者だけでなく 30 代、40 代を含めた地域全体に広げていくためには、もう少し広報活動を進めていきたいと思っています。

林会長： ありがとうございます。デマンドタクシーは高齢者だけではなく、誰でも利用できるのですよね。その点も含めて PR していただきたいと思います。また、現在の利用者数についても教えていただければと思います。お願いします。

松成所長： 富合まちづくりセンターです。周知・PR 不足についてですが、11 月 11 日の自治会

長会議で担当課から停留所マップと行き先一覧をまとめたチラシを配布する予定です。11 月中に全戸配布を進める予定です。利用件数は、富合地区では 9 月の試行運行開始以降約 90 件、10 月 15 日時点で約 20 件の利用がありました。城南地区も同程度と聞いています。

林会長： ありがとうございます。

西田所長： 城南まちづくりセンターの西田です。城南では 9 月に 89 件の利用登録がありましたが、利用登録をせずに一時利用された方が 312 件ありました。かなり利用されていますので、今後も広報に努め、さらに利用拡大を図っていきたいと思います。

林会長：ありがとうございました。委員の皆さまもぜひ PR をよろしくお願いいたします。次の議題に移ります。今年度後半の取組について事務局から説明お願いします。

村上課長：（資料 4 のスライド 58 について事務局から説明）

林会長： 推進方針の改定について、みなさま方からご意見はありませんか。なければ、私の方からお話させていただきます。皆様方に林資料としてお配りしています。人生会議セミナーについてお話しします。南区でも開催していますが、南区以外での開催回数や参加者数の方が多い状況です。人生会議の日も開催していますが、参加者数はなかなか 300 人を超えません。今年は熊本城ホールで開催しますので、多くの方に参加していただきたいと思っています。

令和 3 年から南区で人生会議セミナーを続けてきましたが、開催回数は増えているものの、参加者数は南区以外の方が多い状況です。医療・介護関係者や民生委員の参加はありますが、もっと一般市民の方に聞いていただきたいと思っています。

人生会議という言葉自体がまだ十分に浸透していません。ささえりあだけでなく、まちづくりセンター等とも連携しながら、一般市民向けの人生会議セミナーを増やしていければと思います。

人生会議の日のアンケートを見ると、「人生会議を知っていた」と答えた方の割合は増えてきていますが、まだ半数程度です。認知度は十分とは言えません。皆さんにもぜひご協力いただき、南区での人生会議セミナーを増やしていきたいと思います。

前田委員： 先日、高齢者支援センターの職員向けセミナーのビデオに出演しましたが、その際、施設の方から「人生会議という言葉を初めて聞いた」という反応がありました。高齢者に関わる仕事をしていても知らない方がいることに驚きました。その方の娘さんが報道関係のお仕事をされているとのことでしたので、報道機関にも協力をお願いできないかと思いました。私たち自身も、もっと広報していかなければならないと感じています。

林会長： ありがとうございます。では区長、お願いします。

潮永区長： 私は昨年 4 月に区長に就任しましたが、それまでは人生会議という言葉を知りませんでした。林会長からお話を伺って初めて人生会議を知りました。自分の親もいずれ最期を迎えることを考えると、本人の意思を尊重した生き方を選べるようにすることが大切だと感じました。私たちの世代は親の介護が身近な年代でもありますので、このような話を聞く機会は非常に勉強になります。事業所や地域団体など様々な場を活

用して広げていくことが大切だと思います。現在、地域課題の解決に向けて事業所との連携を進めていますが、事業所の方々にも人生会議セミナーを紹介し、親の介護に直面する世代に響く形で周知していきたいと思います。事業所単位での開催なども工夫していきたいと考えています。

林会長： ありがとうございます。どうぞ。

宮澤委員： 先月母を亡くしました。以前この会議で人生会議やメッセージノートのお話を聞き、母が元気なうちに一緒にメッセージノートを書きました。

延命治療は望まないことや、葬儀で流してほしい音楽なども話し合っていました。そのおかげで母の思いをかなえることができました。

もちろん家族として悲しみはありますが、母の気持ちを事前に聞いていて本当に良かったと思いました。こうした経験を多くの方に伝え、人生会議やメッセージノートの大切さを知っていただけたらと思います。

林会長： 人生会議というより、「家族会議」と考えた方が分かりやすいのかもしれません。

今後どこでどのように暮らしたいのか、年を重ねて病気になった時どうしたいのか、最期をどこで迎えたいのか。そういったことを親子で話し合うきっかけになればと思います。

また、先ほどのお話のように、好きな音楽や大切にしたいことなども含めて家族で話していただきたいと思います。こうした実体験も人生会議セミナーでお話しいただけると、多くの方に伝わるのではないかと思います。

藤崎委員： 先日のイベントで相談を受けた方から、「身寄りがなく、相談できる家族もいない。自分の最期のことは誰に伝えればよいのか」と質問を受けました。

弟さんはいるそうですが、これまで様々な事情があり連絡を取りたくないとのことでした。また、住まいを変える際の保証人や、入院時の保証人を誰に頼めばよいのかという相談もありました。

今後は一人暮らしの方がさらに増えると思いますので、そのような方々も含めた人生会議や支援体制づくりが必要だと感じました。

林会長： 一般の方々は医療や介護の制度について十分に知らないことも多いと思います。人生会議は最期の医療だけではなく、医療や介護の仕組みを知る機会にもなります。

皆さんが相談を受ける中で、「こういうことをもっと知ってほしい」という内容があれば、ぜひこの場で出していただきたいと思います。

地域包括ケアシステムは行政だけでも、個々の団体だけでも進められません。地域住民、関係機関、行政が一緒になって、この南区で安心して暮らし続けられる地域づくりを考えていくことが大切だと思います。

前田委員： 後見支援員として一人暮らしの方を訪問していますが、先週もメッセージノートを書いていただいた方がいました。

その方は家族とは長年連絡が取れておらず、どこに住んでいるかも分からない状況でした。そのような方こそ、自分の思いや希望を書き残しておくことが大切だと思います。

社会福祉協議会とも連携しながら、こうした方々にメッセージノートの活用を勧めてい

きたいと思います。

林会長： 熊本市のメッセージノートは現在改定時期を迎えています。ケアマネジャーからも、内容が記載されていると支援の参考になるという声をいただいています。
皆さんからのご意見も取り入れながら改定を進めたいと思いますので、ご意見があれば福祉課にお寄せください。
また、地域包括ケアシステム推進方針の改定についても、皆さんと一緒に進めていきたいと思います。

宮崎氏（熊本南警察署）： 認知症高齢者の行方不明事案への対応を行っていますが、GPS 端末を活用することで早期発見につながると思います。現在の制度よりもさらに枠を広げて貸与するには課題もあるかもしれませんが、行方不明そのものを防ぐためにも、GPS 貸与制度の活用を積極的に検討していただければと思います。

林会長： ありがとうございます。

濱﨑委員： 訪問先で、高齢者の姉妹が宗教団体に約 300 万円を支払っていた事例がありました。最終的には返金されましたが、こうしたケースではどのように対応すればよいでしょうか。

宮崎氏： 詐欺や悪質商法が疑われる場合は、早めに警察へ相談してください。内容によっては関係機関と連携して対応することができます。

濱﨑委員： いろいろなところに訪問しているので、その点も意識して対応していきたいと思います。

林会長： こういった質問の場になるのもいいですね。次、どうぞ。

田中委員： くまもと元気くらぶなどの活動も、スタートした当初は活気にあふれているが、年数がたつにつれて新規参加者が入ってこなかったり、お世話役さんや参加者の高齢化で退会して、団体が縮小していくなど、継続が難しくなってくる。新しい団体を立ち上げることも大切ですが、長年活動している団体をどのように継続支援していくかという視点も推進方針に盛り込んでいただきたいと思います。

林会長： 原田委員、何かありませんか？

原田副会長： 人生会議や認知症予防は、高齢者だけでなく若い世代や小中学生にも伝えていく必要があると思います。そのためには SNS などを活用した情報発信も重要です。また、認知症になっても希望を持って暮らせるという新しい認知症観がでてきたように、歯科業界も 8020 を達成している方は増えてきているので、新しい目標をたててやっていきたいと思いました。

林会長： 人生会議については、歯科の先生方とも連携しながら、「最期まで口から食べること」や平穏死についても含めて考えていきたいと思います。本日言い足りない方、推進方針へのご意見などは、福祉課やささえりあ、まちづくりセンターまでご連絡ください。

上農補佐： 本日は貴重なご意見をありがとうございました。いただいたご意見を今後の南区地域包括ケアシステム推進に反映していきたいと思います。以上で会議を終了します。